

ニュースレター Vol.1

2020年5月発行

公益財団法人みらいファンド沖縄・琉球宇温基金

ご寄付くださいました皆さま

新型コロナウイルスの感染が拡大しておりますが、皆様におかれましては、お変わりございませんでしょうか。公益財団法人みらいファンド沖縄・琉球宇温基金に温かなご寄付をいただきましたこと、まことにありがとうございました。改めまして厚くお礼申し上げます。

私共は、宇温(たかはる)が遺した「人からもらった幸せをその人だけじゃなく他の人にも幸せをつなぐ」という言葉を礎に、2019年8月に基金の活動を始めました。これまで、たくさんの方々が宇温の「幸せをつなぐ」という思いにご賛同くださり、助成活動の開始をご報告できる運びとなりました。

これもひとえに温かなお心をお寄せ下さった皆さまの賜物と深く感謝申し上げます。

これまでの助成活動

皆さまからいただきました寄付金から、宇温が関っておりました特定非営利活動法人 アメラジアンスクール・イン・オキナワと一般社団法人大学コンソーシアム沖縄子供の居場所学生ボランティアセンターの2つの機関に、それぞれ30万円を助成いたしました。

特定非営利活動法人 アメラジアンスクール・イン・オキナワとは

アメラジアン(Amerasian)とは、米国人(American)とアジア人(Asian)の両親を持つ子供たちのことです。沖縄では毎年約250人のアメラジアンが生まれ続けています。その中には、言葉の壁、アイデンティティの問題や、周囲からの偏見に直面し、サポートを求めている子供たちがいます。

この子供たちに「ダブル」としての誇りと地球市民としての生き方を育む、英語と日本語による「ダブルの教育」を与えるため、1998年6月、5人の保護者がアメラジアンスクール・イン・オキナワを設立しました。

アメラジアンスクール・イン・オキナワは、4歳から15歳までの児童を受け入れ、月曜日から金曜日までの全日制の教育を施しています。生徒たちは、自宅のある地域の公立学校の生徒でもあります。アメラジアンスクールに通うことが在籍公立学校の出席として認められており、卒業時には、在籍公立学校とアメラジアンスクールから卒業証書を受け取ります。

アメラジアンスクールの主要な財源は、保護者による授業料収入と寄付と沖縄県の補助金です。しかし、国からの公的な

教育予算がつかず、運営はきわめて厳しい状況にあります。

(アメラジアンスクール・イン・オキナワの資料から抜粋)

* 宇温は、アメラジアンスクールの学生ボランティアに登録して教育のサポートに関わっていました。

一般社団法人大学 コンソーシアム沖縄 子供の居場所学生ボランティアセンターとは

子供の居場所学生ボランティアセンターは、大学コンソーシアム沖縄に所属する 11 大学に在籍する学生を中心に「学生サポートボランティア」の募集・事前研修・登録を行い、各子供の居場所と学生サポートボランティアのマッチングを行った後に子供の居場所への派遣を行います。学生サポートボランティア活動を通じて、子供の居場所を利用する子ども達の居場所における安心感および自己肯定感を向上させることを目的としています。

このセンターは、内閣府が平成 28 年度から実施している「沖縄子供の貧困緊急対策事業」の一環として、内閣府が沖縄県に補助金を交付し、沖縄県が大学コンソーシアム沖縄に事業を委託して、運営されています。

(子供の居場所学生ボランティアセンターHP より抜粋)

* 宇温は、学生サポートボランティアとして 2018 年 9 月(事故にあった翌月)に石垣島で活動することになっていました。

アメラジアンスクール・イン・オキナワは、中学 3 年生の修学旅行に同行する先生方の費用として、子供の居場所学生ボランティアセンターは、長期休暇期間中離島の子供達のもとに派遣される大学生の派遣費用としてご活用くださったとのことでした。

3 月にアメラジアンスクール・イン・オキナワから子供たちの明るい笑顔の写真を、子供の居場所学生ボランティアセンターからは、離島派遣活動レポートをいただきましたので、別紙に添付いたします。

大学コンソーシアム沖縄では、助成金贈呈式を琉球大学で開催してくださいました。

贈呈式には、琉球大学学長で大学コンソーシアム沖縄代表理事の西田睦さま、琉球大学人文社会学部教授で子供の居場所学生ボランティアセンター長の本村真さまをはじめとした関係者をご出席になり、基金に対して感謝状を授与いただきました。

贈呈式の様子は、子供の居場所学生ボランティアセンターのホームページで紹介されています。

<https://www.consortium-okinawa.or.jp/kg-vc/archives/1214> (別紙)



また、琉球新報と沖縄タイムズの取材もあり、社会面や教育面での記事にしてくださいました。

Facebook ページを立ち上げました

このたび琉球宇温基金の近況などを皆さまにお知らせできるよう、Facebook のページを立ち上げました。

現在、基金の紹介と、このニュースレターでご紹介した助成などの活動が主な内容となっております。

これからは助成先の団体さまの紹介や、宇温との「幸せをつなぐ」活動の思い出なども織りまぜて発信してまいりたいと考えております。

不定期での更新となりますので、時折ご覧いただけましたら幸甚です。下記サイト、または、Facebook の「琉球宇温基金」を検索してご覧いただくことができます。

<https://www.facebook.com/Ryukyu.Takaharu.Foundation/>

なお、本ニュースレターにつきましても Facebook からご覧いただけます。

今後に向けて

現在新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、助成先団体の皆さまも活動の自粛など制限の多い中におられます。このようなときにも私達としてできることを、小さなことでもひとつずつ進めることを通じて、宇温が遺した言葉「人からもらった幸せをその人だけじゃなく 他の人にも幸せをつなぐ」の心に基づいた活動を続けてまいりたいと存じます。

今後とも公益財団法人みらいファンド沖縄・琉球宇温基金へのご支援を賜りますこと、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、新型コロナウイルスの感染拡大の時節柄、くれぐれもご自愛くださいませ。



(別紙)

琉球宇温基金を活用した離島派遣活動報告

2020年2月11日～2月29日の期間、石垣市、宮古島市、多良間村、南大東村、伊平屋村へ合計8名の派遣を行い、167,580円の謝金を支出いたしました。

活動の様子の一部を以下、ご報告いたします。

居場所 A



活動内容：学習支援、共同給食、生活支援、アクティビティ等

学生の声：

居場所では、小学校1年生から中学生まで一緒にご飯を食べたり、掃除をしたりしていました。ほうきがうまくできない子に年上の子が教えたり、上手く食器が洗えない子に声をかけたりする光景が見えました。下級生は、掃除や皿洗いが上手になり、上級生は思いやりの心が芽生え、面倒見がよくなり、教え方がうまくなりそうでした。下級生、上級生も互いに刺激しあいながら成長しているようでした。

離島派遣は今回で4回目ですが、やはり島ならではの「学力の差」を感じました。中学校、高校の数が少ないことで学習に対する競争心が本島の子どもたちよりも低いことを感じま

した。石垣島に大学がないことで大学生がいないことが原因で子どもたちは、大学というものを想像しにくいと思いました。離島派遣を通して子どもたちと大学生が話し、子どもたちに勉強のことや大学生活のことなど色々伝えきれたらいいなと思いました。

居場所 B



活動内容：学習支援、共同給食、生活支援、アクティビティ等

学生の声：

児童にとって大学生は遠すぎない年上の存在で、気軽に接しやすかったのかなと思った。島では大学生がいないので、児童にとってはすごく新鮮で、島の外について考える良い機会になったと思う。

また、地域や地域の人が居場所について理解し見守ることは、居場所の運営やこどもの安全にも関わると考える。この居場所は、居場所の人だけでなく、地域の人にも支えられている場所なんだと感じた。

今回の離島派遣ボランティアでは、居場所・大学生が居場所の子ども達にどんな影響を与えているのか、加えて人生の歩み方についても考えることができよかった。

居場所 C



活動内容：学習支援、アクティビティ

学生の声：

とても元気いっぱい学年が異なっているにも関わらず仲良く遊んでいたのすごいなと思いました。初めて会った私のこともすぐに仲間に入れてくれて打ち解けることができたのでよかったです。

私は普段、地元の子ども食堂で活動しているのですが、こちらの居場所とは違って限られた子どもたちが来るので、誰でも気軽に遊びに来れるこちらの居場所は、また違った良さがあるなと感じました。少人数に手厚い支援をすることも大切だと思うし、多くの子どもたちが利用できるようなオープン型の居場所の存在も大切だと思います。今後、両方の居場所が増えていくといいなと思いました。

居場所 D



活動内容：学習支援、共同給食

学生の声：

小学生は基本的に人見知りする子が少なく、自分から話しかける子が多かったため、仲良くなりやすかった。家族のこともどんどん話してくれる子が多くて、会っての一言目がなかなか返しに困るようなことも最初の頃は、何度かあったが、子供達自体は常に明るい様子なので、それに引っ張られるようにこちらも明るく対応できたと思う。はじめは、いろいろ緊張した派遣だったが、最後にはとても楽しくて、貴重な経験ともなり、また行きたいと思った。

アメリカンスクール・イン・オキナワの子供達



公益財団法人 みらいファンド沖縄・琉球宇温基金

〒903-0824 沖縄県那覇市首里池端町 34 2F

TEL 098-884-1123

ホームページ

<https://miraifund.org/kikin/takaharu/>

<https://www.facebook.com/Ryukyu.Takaharu.Foundation/>